



読字 原田 観

No. 656

2011/12/15

# 日中友好新聞

発行所  
日本中国友好協会  
〒100-0005 東京都千代田区  
西神田1-1-1 東京ビル3階

日中友好協会  
岡山支部  
〒703-8236  
岡山県東区3-8-30 511  
TEL:0861272-3010  
郵便番号11所  
01250-0-3835

日中友好協会  
倉敷支部  
〒713-8014  
倉敷市連島中央1-8-1  
(宮地方)  
TEL:FA0861416-2711

日中友好協会岡山支部ホームページ  
<http://rizhong.web.infoseek.co.jp>  
メールアドレス  
rizhong86@hotmail.co.jp



## 倉敷支部が「孫文記念館見学」

### 辛亥革命100周年記念行事として

2011年は、中国の辛亥革命100周年にあたります。日中友好協会倉敷支部では12月2日(金)に辛亥革命100周年記念行事として、神戸市にある日本唯一の孫文記念館を訪ねる旅行を行い、11名の会員が日帰り旅行を楽しみました。

2011年は、中国の辛亥革命100周年にあたります。日中友好協会倉敷支部では12月2日(金)に辛亥革命100周年記念行事として、神戸市にある日本唯一の孫文記念館を訪ねる旅行を行い、11名の会員が日帰り旅行を楽しみました。

たため急きよ理事会で、孫文記念館」の旅計画に変更しました。12月2日午前8時半にマイクバスと乗用車2台で倉敷を出発し、孫文ゆかりの地神戸に向かいました。行く途中で支部が用意した「辛亥革命と日本」の年表が資料として配られ辛亥革命当時の日本の姿も事前学習しました。神戸は孫文が亡くなる前年に「大アジア主義について」の講演をしたところですが、途中道に迷ったりしましたが、正午前に神戸市舞子浜公園にある「孫文記念館」に到着、約一時間館内を見学しました。



舞子浜公園の「孫文記念館」

孫文記念館は舞子の六角堂、八角堂とも呼ばれている建物で、国や県の重要指定文化財でもあります。神戸市で当時活躍していた華僑の貿易商、呉錦堂が建てた別荘の一部で、1

## ニホン人は、なぜ、ニホン語をおしえることができるのか？ ②

竹内和夫

どんな制度、どんなルールがあるのか、知りつくしているからこそ、いくらでもおしゃべりができる。いくらでも例をあげることができる。

「この文は、おかしい」とか「この発音は変だ」とかいえるのも、ニホン語の音の決まりと文法を知りつくしているからなのです。

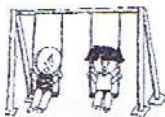
この特権を、活かさない手はない。ただし、科学の目でニホン語をみれる(みられる)かどうか問題。

科学は実験から。中国帰国者といっしょに例文を、たくさんつくる。双方ノートをつかう。おしえるとは、いっしょに発見することだから。

4000もある動詞のうち、ツ(つまる音)は、どんな法則で出るのが、しらべることから、はじめよう。

たとえば1~8(絵をそえると、おもしろい)、なん回も読む。ツを一拍として。

- 1、ポチが庭を走っている。←ハシル(辞書形)
- 2、ぼくは、いい本を買った。←カウ
- 3、ブランコにのった。←ノル
- 4、山のむこうに風車が立った。←タツ
- 5、ねえさん、お嫁に行ったの？←イク(ユク)
- 6、あの本、取ってくれない？←トル
- 7、ジャンケンで勝った人は？←カツ
- 8、包丁で手を切っちゃった。←キル、シマウ



この辺で、どうでしょうか。つまるとき、どんなルールがあるか？よく例文をみて、気がついたことを言ってください。←イウ

### 【ツの発音練習】どんな音がする？

どんな口で発音するか絵にかいてみよう。  
イッポン(一本)、イッカイ(一回)、イッサツ(一冊)  
イットウ(一頭)、イッチャク(一着)



984年に孫文記念館として開館したもの。内部には孫文自筆の「天下為公」などの扁額が数多くあります。まず最初に孫文の生涯を描いたDVDの映画を視聴し、そのあと約一時間にわたって「日本と孫文」などの展示品を見学しました。展示品の中には、孫文と交流のあった日本人、宮崎トウ天、梅屋庄吉、内田良平らとともに、今まで埋もれていた日本人も数多く紹介され、わが岡山県では犬養木堂への手紙なども公開されていました。見学を終わって記念館の近く

で昼食をとり、その後神戸の南京街で楽しいひとときを過ごしました。旅の参加者からは、孫文の交流の広さがよくわかった、孫文が革命に何度も失敗しながら、最後までその信念を貫いたところがすばらしい、孫文の時代に日本が世界の列強とともに朝鮮や中国に対して何をしようとしていたのか、もっと全体像を見たかったなどの意見が寄せられました。しかし、全体としては今回のような見学の旅に多くの期待が寄せられました。

先の十一月二十三日、日生沖の鹿久居島にて、日中友好協会岡山支部の太極拳、毎年恒例のみかん狩りが開催された。みかん畑からは島の入り江と海が見え、景色がとても良かった。私は畑の斜面の中ほどで、他の数人と一緒にみかんを摘んだ。手あたり次第に箱に放り込みながらふと見ると、ベテラン参加者は、大ききの揃ったみかんを底からきれいに並べて詰めている。さすが。初参加の私にはない知恵である。

この日は雨の予報だったがほとんど降らず、のどかな島での時間を満喫することができた。岡山支部主催のイベントは雨が降らないジンクスは健在、ということかな？

行地 佐輝子



# 芳田日本語教室

## 課外学習

11月22日、芳田日本語教室7名で真庭市に出かけました。天候にも恵まれ、10時に芳田公民館を車2台で出発しました。4月に開講して以来、初めての課外学習です。

小林先生の先導でまずは神庭の滝に、寒いせいか猿の姿はありませんでした。山根さん・鄭さんも、御夫婦で写真を撮りあつたり、仲睦まじい様子でした。この神庭の滝、高さが110mもあるそうです。次に向かったのは勝山の町です。町並み保存地区に入ると、家の軒先に草木染めの「のれん」が風に揺れていました。ちよつと

中を覗いてみたくありません。私たちは御前酒蔵元でお土産を買いました。ひるぜん焼きそば煎餅の試食、おいしかったですよ。もちろん買って帰りました。

少し遅めの昼食の後、旧遷喬尋常小学校に行きました。偶然、小林先生の教え子の方がおられました。私たちを案内してくれました。ルネッサンス調の木造校舎、そして中には当時のまま机や椅子。みんなで椅子に座ったり、教壇で記念写真も撮りました。短い時間でしたが、子ども時代にタイムスリップできました。

楽しい一日が過ぎたのも、みんなの温かい気もちのおかげです。これからも一緒に勉強していきます。長い運転、本当にお疲れ様でした。

宇垣元子



旧遷喬尋常小学校 前列左から鄭、王、山根夫妻、宇垣  
後列左から貝吹、小林

## 遠足

今日は火曜日です、先生たちと一緒に真庭市へ行きました。

こぼやしせんせい、貝吹先生と山根夫婦は小林先生の車に乗っていき、私と宇垣先生は主人の車に乗って行った。

2時間くらいで真庭市にきた、まず神庭の滝に来た、車を降りたとき、水が流れる音が聞こえました。

自然の音が大好きです。道はくねくね上ります、5分後滝が見えました。滝の長さは110mです。山の上はどうだろうと流れる、とてもきれいです。私たちはたくさん写真を撮りました、山には猿がいます、見えませんでした、とても残念でした。

それから、お昼ご飯を食べて、古い小学校へ行きました。100年以上の小学校を見ると、私、子供の時を思い出しました。淋しいです。

そろそろ3時になった、帰らなければなりません、家に帰った。暗くなりました。一日とても疲れました。しかし、先生といっしょに話した、いい勉強になりました。た、それに景色を見ました。よかったです。

日本に来てから1年、鄭麗敏

## 「内モンゴル自治区」への旅 5

私は妙に「国境」というものに興味をもっている。世界地図を見ながら、一本の線で表わされている「国境」とは何だろう、と思う。直線もあり曲線もある。国境が山の稜線だったり川だったり。ときには「大工の壁」だったり。日本に陸の国境がないせいかよけい興味がわくのだ。

中国の丹東市郊外で見た北朝鮮との国境は、ジャブジャブ歩いて渡れるような小川（鴨緑江の支流）だった。モッコをかついで働いている北朝鮮の男の人たちと、言葉が通じたら会話できるほどの近さだった。そして、たえず起こっている国



太極拳をする人々

みなさんこんにちは、今日はお休みのところ、日本語教室7周年の集いにご参加いただきまして、どうもありがとうございます。

2004年に中国残留孤児「訴訟」の活動の中から生まれた日本語教室（2004年10月23日、岡山市高島団地）も、今では岡山市で長岡県営住宅、福祉プラザさいでん、高島公民館の3カ所で行われるようになりました。その上、今日も遠路参加してくださっています

が、総社教室（2005年6月2日）、倉敷教室（2006年9月2日）もでき、支援の輪は全県に広がっています。日本語教室は、地域の中で希望するみんなが「学習できる」場であり、親睦と交流をはかる場であると思っています。そのことが、また日中友好のかけ橋ともなっていくのではないのでしょうか。

今年からは帰国者の人もつどい実行委員会に参加してもらって、ともにアイデアを出し合い、会議を重ねて今日に至っております。会場には教室ごとの日常の様子や活動を写真や文章にまとめて張り出しておりますので、あとでゆっくり是非ご覧ください。

ではただいまより、各教室の個性あふれる発表の数々をどうぞお楽しみください。

成田宣子

## 日本語教室7周年所感

中国帰国者日本語教室開講7周年記念会は丸く終わりました。今年の準備の会議に初めて帰国者生徒の代表として参加しました。私もこの中に参加できてとても光栄に思いました。一回一回の準備会議に、先生方のまじめな取り組みの態度は、私に深い印象を残しました。先生と生徒たちの熱心な練習と素晴らしい出し物は、私たちを楽しませてくれる一日と

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

た。また、この旅を扱った岡山市のA旅行社からは、日程表とともに資料も送られてきた。満洲里市の第一の見どころは国境門であること書かれている。坪井あき子

なりました。

私は日本に来たばかりのことを思い出します。始めに県庁が派遣してくれた指導員の佐藤先生は私に長岡教室を紹介してくれました。以後、私は次々に財田教室と高島教室へ行きました。4年半の日本語学習をするうちに、私はこの日本語教室に深い感情を抱いてきています。今、私の心の中に、日本語教室は勉強する場所だけではなくあります。日中友好と文化交流することを促進する場所でもあります。

7年来、先生方と生徒たちの共同で努力で、われわれ帰国者は日本語が程度差はありますが、少しずつ進んでいます。同時に、先生方が我々を各種活動に参加させて（例えば、花見、旅行、観光、法事をみるなど）私に眼界を開けさせて、日本の文化や風俗や習慣を深く理解できるようにしてくれました。先生方は先生であり且つ友達であるとも感じています。

日本語教室で、私は見識を深めたり、また友誼もいただきました。今後、この日本語教室をますます良くなるようにしていきたいと思えます。私はこの日本語教室が大好きです。

篠原明男

次回の新聞送付作業は12月27日（火）午前10時、民主会館2階で行います。前回お手伝いくださった方です。

葉吹林 和 稲貝小竹 内井 坪井 三